

知床世界自然遺産地域保全事業 (2016年7月～9月)

(1) 多様性に富むしれとこの森を復元する事業

森づくりを行っているしれとこ 100 平方メートル運動地内には 22 の作業道があります。路盤の陥没や水はけが悪く車両の走行の妨げになっている箇所が多く見受けられます。今期は 3 路線の作業道に砂利入れを行いました。

運動地内最大の防鹿柵は築 13 年が経過し、現在柵を支えている木柱の腐食が進んでいることから、2～3 ヶ年計画で順次鉄柱（約 350 本）に打ち替えていく予定です。この 8～9 月から作業に着手し、35 本の鉄柱を打ち込み既存のフェンスに取り付けました。



砂利を敷き均した後の作業道（7月）



鉄柱の打ち込み作業（9月）

9月24日（金）～26日（月）の日程で、11回目となるダイキン工業知床ボランティアを開催しました。11名の参加者の皆さんには、この夏台風によって倒壊した防鹿柵の補修作業や柵内の樹皮保護ネットの改修、苗畑での草むしりなどさまざまな森づくりのお手伝いをしていただきました。



倒壊した防鹿柵（8月）



ダイキン工業ボランティアの皆さんによる
補修作業の様子（9月）



苗畑の草むしり（9月）



ダイキン工業ボランティアの皆さん。
知床連山をバックに記念撮影（9月）

（2）世界遺産の価値を守り、伝える事業

知床自然センター館内において知床を訪れる皆さんに知床の自然や歴史、森づくりの活動やその意義を伝えるレクチャーを定期的に行ったほか、地元の小中学校や高等学校、大学等合わせて8組284名に対し森づくりに関するレクチャーや体験学習を実施しました。



レクチャーを受ける網走市中央小学校の
児童たち（8月）



100平方メートル運動地を訪れた
斜里中学校1年生の生徒たち。
カツラの大木を背に記念撮影（9月）

夏は雑草がぐんぐん伸びる季節です。人の生活圏へのヒグマの侵入を防ぐ電気柵に雑草が触れるとそこから漏電して効果が薄れてしまいます。1～2週間に1度の頻度で電気柵の電圧チェックを行い、8月に全区間を対象として一斉に草刈りを実施しました。

また、8月には3つの台風が連続して上陸し、電気柵設置区間においても土砂崩れや河川の増水が発生しました。柵の被害状況を確認し、破損や流失部分については直ちに修復を行いました。さらに9月9日には羅臼町で観測史上最大の降水量が記録され、大規模な土砂崩れが発生しました。9月末現在も通行止めとなっている区間があり、全ての電気柵の被害状況の確認はできていません。道路開通後、状況を確認し復旧作業を実施する予定です。



土砂崩れに巻き込まれた電気柵



北浜地区の土砂崩れの様子

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。